



かぜ 合志の旋風 ～自律協働貢献～

令和 8 年 9 月 25 日（金）No 20 発行
文責：松本 卓也

結果が出なかったとしても絶対に辞めない

アジア最大のスポーツの祭典である「第 20 回アジア競技大会」が、9 月 16 日（水）から 10 月 4 日（日）にかけて愛知県・名古屋市で開催されます。アジア各地から集結したアスリートたちが繰り広げる熱戦の数々を楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。（昨夜の卓球男子団体の決勝戦、痺れました・・・）

私が注目している選手の一人は、昨年の学校通信 No20 でも紹介した女子やり投げ日本代表の北口榛花（はるか）選手です。2023 年世界陸上競技選手権大会で金メダル、2024 年パリオリンピックでも金メダルを獲得した北口選手は、大会連覇が期待された昨年の世界陸上競技選手権大会では、ケガの影響もあり予選 14 位で決勝進出を逃しました。終了直後の TV インタビューでは、「精一杯はできたと思っているので・・・。どうしたらいいかわからないです」と、涙ながらに苦しい胸の内を明かしました。しかし、その後に行われた取材エリアでのインタビューには、「世界大会の借りは世界大会でしか返せない。決勝に残れなかったからって人生終わりだとは思わないので、ちょっと長い休みは必要かもしれないですけど、強くなってちゃんと戻ってきたい」と、気持ちを切り替え前へ進む覚悟を見せてくれました。北口選手の前向きな人柄がわかるエピソードを 1 つ紹介します。



やり投げを始めてわずか 2 ヶ月で北海道大会優勝、2 年生で全国高校総体優勝、3 年生で世界ユース選手権金メダルと順風満帆な高校生活から一転、大学では、1 年時に右肘を故障、さらに専門のコーチ不在と記録・結果へのプレッシャーから、3 年時の日本選手権では予選敗退（12 位）に終わる等、不振に陥りました。

しかし、どんなに苦しくても、「陸上で大学に来て、辞めたら何も残らない。同級生たちは受験勉強をして大学に進学して、教員になりたいから教育学部、医師を目指して医学部、と目標を自分で決めていました。だから、結果が出なかったとしても絶対に辞めない」と心に決めていました。水泳、バドミントン、勉強、いろいろな選択肢の中でやり投げを選んで、あの時、あれを選んでいればよかったという後悔をしたくない」という思いで、グラウンドには必ず足を運んでいたそうです



今年 1 月に大学生時代から 7 年間師事したセケラクコーチとの契約を終了。5 月からゼレズニー新コーチのもとで新しいフォームに挑戦しました。シーズン序盤は「言われたことをやるのに手いっぱい」の状態で、納得できる記録には程遠い日々が続きましたが、夏場の合宿で課題を一つ一つクリアし徐々に記録を伸ばすと、今月 12 日（土）の陸上アルティメット選手権では、68m92 の日本新記録を樹立して優勝しました。あきらめない心、挑戦する勇氣・・・。困難に遭遇したとき、どうやって乗り越えていくのか？彼女の生き様が私たちにヒントを示してくれています。明後日 27 日（日）、女子やり投げ種目が行われます。心から声援を送りたいと思います。

物語の世界にひたる体験がこころを育てる ～本を寄贈していただきました～

株式会社 Gakken 様から、「令和 8 年熊本地震で災害救助法が適用されている自治体に、書籍の支援を行いたい」との申し出があり、図書館担当教員、図書司書で選定した 10 冊の書籍が本校に届きました。平成 16 年（2004 年）に策定された「第一次肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県教育委員会）」では、読書の意義を次のように述べています。

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。とりわけ、これからの社会は「人々が、生涯いつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」ような生涯学習社会です。このような社会のなかで、読書は、自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、行動する力や豊かな人間性等の「生きる力」の基礎を育む重要な手段といえます



物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力が身につきます。特に、登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちに触れることで、他人の感情や思いを知ることができます。読書の秋、本に触れてみませんか？ Gakken 様、温かなご支援ありがとうございました。

※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）